

復興支援フォーラムニュース No. 84

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

「福島*のいま*」を伝えつづけて

佐藤 政 男

- 【 1 】 はじめるきっかけ
- 【 2 】 プライベートに何かできることがないか
- 【 3 】 伝えていること
  - ① どんな事故か
  - ② 事故直後におこること
  - ③ 事故直後に健康被害を防ぐ
  - ④ 3年9カ月後の現在はどうなっているか
- 【 4 】 健康/生活への影響
- 【 5 】 環境はどうなっているか
- 【 6 】 どのように伝えたか
  - ① 対象にした人びと
  - ② どんな形で
  - ③ どのような反応があったか
  - ④ 何が原発事故を知る事に成り得るか
- 【 7 】 これからどうするか 電力事情の変化など
- 【 8 】 福島の人びとの思いと願いを伝えるために

福島復興のため、個人でも何かできることがないかと、“福島*のいま*”と“人びとの思い”を多くの人に伝えようとする試みを紹介する。

福島原発事故が、人の活動に伴って生じ、相当範囲にわたり、放射能による大気、水質、土壌の汚染によって、人の健康又は生活環境（人の生活に密接な関係のある財産・家、農地、山林、町や村並びに人の生活に密接な関係のある動植物（畜産、野菜、果樹、魚、米）及びその生育環境を含む）に係る被害が生じていることを周囲の人に知らせた。

そして、広がりにつながる可能性として、“資料を知人に説明する、小学習会で使用している、何を考え、何をすべきかを問う契機になる”、などの反応を紹介する。

**【関連資料】**

佐藤政男著「未来を探す人びと 拡大する原子力発電公害の中で」

(かもがわ出版 2014. 12. 5 定価・本体800円＋税)

<目次>

はじめに

- 1 いまの福島は 新たな生活に入って (2012年12月)
- 2 東京で664万人、大阪で513万人が避難の形に? (2013年2月)
- 3 早期に除染して安心な住める町と帰れる家に (2013年4月)
- 4 ここで生活していかなければならない (2013年7月)
- 5 再稼働申請のゆくえ (2013年11月)
- 6 汚染水の非常事態は国が東電より前面に出て! (2013年12月)
- 7 原発事故は各世代の健康状態を悪化させる① (2014年1月)
- 8 原発事故は各世代の健康状態を悪化させる② (2014年3月)
- 9 福島県民は沖縄と共通の思いが (2014年4月)
- 10 3年過ぎて復興の足掛かりは見えたか? (2014年5月)
- 11 科学者・技術者の力を福島復興に (2014年6月)
- 12 福井地裁の判決は福島県民と国民を力づけた (2014年7月)
- 13 日本語の無力化と風評被害 (2014年9月)

あとがき

~~~~~  
【予告】第83回フォーラム 2015年1月15日(木) 18:30~20:30

「新地町の被災の状況と復興の現段階」(仮題)

報告者: 加藤 憲郎 氏 (新地町長)

会場: 福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室 1

## 第81回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

12月18日、第81回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

今回は、藤田大氏（株式会社鳥藤本店専務取締役）から、「旧警戒区域復興への挑戦」について、報告がなされました。

雪の中、32名が参加し、熱心な質疑応答がありましたが、会場で文書提出されたものは、以下の通りです。

~~~~~

★ 明るい雰囲気、かつ力強くお話しされ、とても聞き入ってしまいました。明るさの裏には、大変なご苦労があることと思います。最後に流れた映像のなかの「ふるさと」という言葉が、深く印象に残りました。貴重なお話ありがとうございました。（N.K）

★ 現状をふまえた、できる人が、できる時に、できることをしようと云々という発想は・実践は、復興を草の根から進める確実な力と息吹を感じました。（T.S）

★ 「できる人が できる時に できる事をする」。大きなことを目指すのではなく、自分にできることを考え行動する。実行します。（H.S）

★ 「できる人ができる時にできる事をする」のは、全くその通りだと思いました。よくぞ、ここまで前向きになった人がいたと正直驚きました。（K.M）

★ 友人ですが、これからも共に考えていきたいと思います。改めて、イロイロな想いと共に、多様化した社会を対話することから、歩みたいと思いました。みんなで頑張りましょう。えいえいおー♡（C.K）

★ 生きるため、前向きな話を聞くことができ、私も（いわき市）これからもっと応援していきたいと思いました。一緒に頑張りましょう！（E.H）

★ 報道でしか知ることが出来ない現地の情報を、まさに重大な災害を体験された渦中の人によるご講演をいただきまして感動しました。また、復興の未来に向けて行動する姿にご期待申し上げます。（K.F）

★ 除染に先立って、貯蔵施設が必須と思います。収束作業は、根本的には進んでいないように思います。少しずつ、空中に海へ、汚染が進んでいます。（M.T）

★ 今日、心に残る言葉がたくさんありました。一番心に残ったのは、「できる人ができる時にできる事をする」です。震災の記念館の話が議論に上がりましたが、ハコモノよりもまず中味（ソフト面）を大事にして欲しいです。ここで報告された菊地芳朗さんが、「震災ミュージアム」の話を論文にしています。（Y.I）

★ 現地居住者の生々しい証言と気持ちの吐露に、余人にはない迫力を感じた。ただし、どちらといえば、心証風景の表出に留まり、証言の脈絡がフォローしきれなかった。（S.I）

【2014年に開催された「ふくしま復興支援フォーラム」】

- 第55回（1月9日）佐藤彰彦氏「原発事故県外避難者が抱える問題と構造」／
- 第56回（1月23日）井上能行氏「東京新聞はなぜ脱原発か」／
- 第57回（2月6日）志賀茂氏「福島県の畜産の現状と復興の課題（研究所の視点から）」／
- 第58回（2月20日）椿淳一郎氏「汚染土壌の減容化について」／
- 第59回（3月6日）松原茂氏「福島における商業・サービス業の復興再生を目指して～マツバヤの経験から～」／
- 第60回（3月18日）今井照氏「自治体再建・原発避難と『移動する村』」／
- 第61回（3月27日）伊澤史朗氏「双葉町における被災の現状と復興への課題」／
- 第62回（4月10日）針生達矢氏「震災下の労働問題について」／
- 第63回（4月20日）伊藤寛氏「避難者の生活再建と地域再生」／
- 第64回（5月2日）渡部寛志氏「避難者から福島復興を考える」／
- 第65回（5月15日）松野光伸氏「飯舘村は負けない～復興の模索と課題～」／
- 第66回（5月21日）坪倉正治氏「内部被ばく検査の現状、結果から見えることとその問題点」
- 第67回（6月5日）渡辺利綱氏「原子力災害からの復興に向けて～大熊町の現状と課題～」／第68回（6月19日）開沼博氏「『理解の復興』と『生活の復興』・各論を超えて～福島学構築のプロジェクトの取り組み～」／第69回（7月3日）斎藤隆氏「外国出身県民にとっての東日本大震災・原発事故」／第70回（7月17日）富田愛氏「県外避難者の現状と課題」／第71回（8月7日）佐藤英雄氏「土湯温泉における再生エネルギー（バイナリー発電、小水力発電）事業」／第72回（8月21日）遠藤智氏「広野町の被害の状況と復興の課題」／第73回（9月9日）高木健氏「老人福祉施設における避難及び復興に取り組む現在の課題」／第74回（9月18日）ユミソン氏「福島の小さな町から始まったアート／土湯アラブドアートマニュアルの事例」／第75回（10月9日）高木亨氏「過去の災害の経験から見えること～2000年三宅島雄山噴火の経験・、水俣58年間の経験」／第76回（10月23日）二瓶由美子氏「原発事故後のリスクコントロール教育実践から」／第77回（10月31日）高瀬雅男氏「ドイツと日本の電力改革～電力自由化、脱原発、再エネ～」／第78回（11月6日）富塚宥暎氏「東日本大震災における田村市の災害対応の概要」／第79回（11月20日）洪浩彰氏「医療側から見える医療体制の崩壊～いわき市在住一麻酔科医からの報告～」／第80回（12月2日）本多環氏「福島子どもたちに寄り添いながら」／第81回（12月18日）藤田大氏「旧警戒区域復興への挑戦」／第82回（12月26日）佐藤政男氏「『福島いま』を伝えつづけて」

よいお年をお迎えください！